

令和3年度第1回 大阪市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会
地域福祉基本計画策定・推進部会（会議録）

日時：令和4年1月25日（火）午後2時～

場所：大阪市役所7階 市会第5委員会室

出席者：（来庁）浅野委員、佐藤委員、田村委員、藤井委員

（Web）小野委員、川上委員、種継委員、野村委員

1 開会

- ・委員紹介
- ・出席職員紹介

2 議事

- （1）部会長の選任について
- （2）地域福祉に関する実態調査について
- （3）大阪市地域福祉基本計画の進捗状況について

（近藤地域福祉課長代理）

部会長の選任について、「大阪市社会福祉審議会条例施行規則」により委員の互選で選出する旨説明。前任期に引き続き、藤井委員を部会長とする事務局案を提示【議事1】

（委員一同）

- ・（藤井委員の選出について）異議なし。

（藤井委員）

- ・よろしくお願いします。

（近藤地域福祉課長代理）

- ・そうしましたら、藤井委員にお願いしたいと思います。
- ・それでは最初に藤井部会長の方から一言ご挨拶をちょうだいしたいと思いますので、よろしくお願いします。

（藤井部会長）

- ・皆さんご苦労様です。
- ・ちょうどね、この計画が、令和3年度からという、最初からもうコロナのスタートで、

これを実施されている事務局の皆様も、大変な思いをしながら、この計画の1年目を過ごされたと思います。感謝いたします。

- ・地域福祉計画は、もう皆さんご存知のように多分野の社会資源を作っていくって言いま
すか、施策を、制度を運用していく他分野の計画とはちょっと異なって、むしろないも
のを作っていくと。
- ・そういう意味では、計画上の性格も、形成計画とか、作り上げていく計画であるとか、
実験計画であると、ある意味では制度の狭間の問題や制度にないところ、制度を超える
問題に対して、住民の自発性もともないながら、作り上げていくと。
- ・そういう計画の性格を持っているという意味では、しっかりこの令和3年度から始まっ
た3ヵ年の計画の、中身は十分に審議しましたので、これを遂行しながらも、新しい課
題であるとか、もうすでにこの1年コロナで環境がかなり変わっている課題に対して
は、計画にこだわらず、計画を踏まえながらも、もっと新しい知見であるとか、試みで
あるとか、そういうものを大胆に進めていくというのが、地域福祉計画の進行管理の方
法でございますので、そういう意味では今日もですね、コロナの対応で、通常2時間ぐ
らいの審議を1時間半という短い時間で効率的に進めないといけないんですけれど、
ぜひ積極的なご意見をいただけたらと思います。
- ・またこの3年間、5年度までですかね、まずは、そういうところで、皆さんとご審議を
進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いします。

（近藤地域福祉課長代理）

部会長職務代理者の選任について、「大阪市社会福祉審議会運営要綱」により部会長の指名により選出する旨説明。

（藤井部会長）

- ・所委員をお願いをしたいと思います。

（地域福祉課長代理）

- ・ただいま藤井部会長からご指名がございました所委員でございますけれども、冒頭申し
上げましたように本日は会議のご欠席をされている状況ではございますが、事務局で、
所委員から「部会長から、職務代理者に指名された場合にはお受けしたい」というご伝
言をお預かりしておりますので、所委員をお願いしたいと思います。
- ・この後の議事進行につきましては藤井部会長をお願いしたいと思います。よろしくお願
いいたします。

(藤井部会長)

- ・ それでは進めさせていただきます。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大防止徹底の観点もあって、この部会におきまして、オンラインを併用した形での実施とさせていただいています。
- ・ 部会としては初めての試みであり、議事進行については、余裕を持って進めていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いします。
- ・ 前回の部会は、昨年度の夏で、今期計画の素案についてご審議いただきました。その後ですね、地域福祉専門分科会、パブリックコメント手続きの実施、社会福祉審議会総会での議論を経て、今年度より、第 2 期の地域福祉基本計画が策定されております。
- ・ 3 ヶ年の計画ということもありますので、早速次期第 3 期計画の策定に向けて、来年度実施予定の地域福祉に関する実態調査について、また、第 2 期の現時点での計画の進捗状況について、皆様にご意見を頂戴したいと考えています。
- ・ 本日頂戴するご意見につきましては、可能な限り、本日事務局と方向性を確認したいと存じますが、調整が必要なものについては、最終的に私にお任せいただく部分もあろうかと思っておりますので、あらかじめご了解をお願いいたします。
- ・ それでは限られた時間となりますが、早速議事を進めて参りたいと存じます。事務局から説明をお願いします。

(伊藤地域福祉課長)

地域福祉に関する実態調査について資料 1 に沿って説明【議事 2】

(藤井部会長)

- ・ 何か概要について、ご質問ございますでしょうか。

【質問、意見なし】

(藤井部会長)

- ・ 前回からの継続性、経年評価をするということを大きな目的にして、今回、内容をあまり変えずにご提示してるということでございます。次から具体的に内容に移りますので、その時にご意見いただければと思います。それでは次の内容に進みたいと思います。事務局からご説明をお願いします。

(伊藤地域福祉課長)

地域福祉に関する実態調査について資料 2 ～ 5 に沿って説明

(藤井部会長)

- ・それではですね、先に３者ありますけど、主に資料３－１の世論調査についてのご質問も多いかと思しますので、資料３－１から、皆様のご意見とかご質問を受けたいと思います。いかがでしょうか。

(野村委員)

- ・質問項目について質問があるんですけども、資料３－２の１６ページなんですけれども、生活の上での困りごとや悩みごと、また不安について問うている、この項目の選択肢の中に、住まいに関することも必要なのではないかというふうに思いますので、その点をご検討いただきたいということ。
- ・それから、コロナ禍において、この生活課題というものが若干、地域住民の皆さんの課題が変化をしているということが、昨年度実施した調査で明らかになっていまして。その中で「こどもや孫の将来のこと」、ということはあるんですが、項目の中に将来の生活に関する選択肢がないということで、昨年度コロナ禍で別途、実施をした生活課題に関する調査では、将来の生活に不安を感じるということが、コロナ禍において２６．５％で見られましたので、選択肢として必要なのではないかということを、ご検討いただきたいというふうに思います。
- ・それともう１点、より具体的になりますので、ここまで必要なかどうかということもあるかもしれないですが、ひきこもりや不登校ということに関しても、別途調査では１割程度回答がありましたので、相談支援体制の充実に関してこの点も選択肢として入れてはどうかという意見になります。

(藤井部会長)

- ・調査票の質問１４ですね。住まいのことというのは具体的にはどういう項目が考えられますか。

(野村委員)

- ・もうそのまま「住まいのこと」でいいと思うんですが、言い方を変えたとすると、「住居に関すること」などかなというふうに考えています。
- ・将来の生活という選択肢が必要ではないかというのが、２点目です。もう一つはひきこもり、不登校で、ちょっと具体的になります。

(藤井部会長)

- ・野村委員の意見に重ねて何かございますでしょうか。必要であるとか、いや、こういう項目ももう少しとか、いかがでしょうか。

(田村委員)

・学校のことはどういうふうに反映するのかなというのは、ちょっと気にはなっているんですけども。それ以外のことも、別の計画が基本的にあるということが以前からあったりするので、学校の生活のことが、コロナ禍で非常に課題にはなっていて、その辺りのことを、今、野村委員おっしゃったこの質問 14 のところで、反映していくのがいいのか、それとも他の計画との関係で、そこはもう十分に反映する資料があるのかっていうことについて、一旦確認というか教えていただきたいというふうに思っていました。

(伊藤地域福祉課長)

・今、学校の具体的な調査というのはどういうものがあるのかというのが正確にわからないので、それについてはまた確認させていただきます。

・この世論調査自体は 18 歳以上の方に調査をすることになるので、もし学校関係とかでいうことであれば、大学生とか専門学校生とか、ご自身のことが答えられるかもしれないですし、親として、何らかの保護者としてのご回答みたいなイメージに、もし入れるとすれば、なるのかなと思います。

(田村委員)

・すいません言葉が足りなくて。おっしゃるように、どっちかといったら家族として、学校の生活、一部保育園の、コロナ禍の影響を受けて、ご自分自身の、広く言えばいろんなことに関与すると思うんですけども。まず、この間の日常生活がどうであって、そのことに関しての、きちっと相談窓口が機能してたのかっていうことについて、必要なのかなというのは思っていたんですけども。

・先ほどご質問したように、他でもそれは取れてるということであれば、経年変化を見るという意味では、追加する必要はないのかなと思ったので質問しました。

(伊藤地域福祉課長)

・ご意見ありがとうございます。学校関係の、家族とかの調査について、きちんと事務局の方で確認しましてまたお知らせさせていただきたいと思います。

(藤井部会長)

・今、野村委員からご指摘のあった 3 つについて、ここに取り入れる、取り入れないというのはまた、慎重な議論、検討が必要だと思います。何かコメントがございましたら。

(伊藤地域福祉課長)

・野村委員からいただいたご意見の中で、2 点目の、将来の生活に不安を感じるという部

分なんですけれども、こちら、今、例えば8番の「収入など経済的なこと」とか、9番の「仕事のこと」とか、そういった少し具体的な、これが将来のことなのか、今現在のことなのかというのは区分してないんですけれども、その辺りのその具体の選択肢との関係というか、野村委員のイメージみたいなところとかも、教えていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(野村委員)

・具体的な、「収入など経済的なこと」ですとか、「仕事のこと」というのは現時点での不安というものが、含まれた回答になるんですが、コロナ禍ということを想定をした時に、漠然とした将来の生活への不安ということが、別の調査でも、その割合が高くなっているという変化がありますので、大阪市においても、将来の生活ということについて、一つ、具体的なものではないんですけども、漠然とした不安を抱いているということも踏まえて、将来の生活という選択肢を入れてはどうかというのが、提案の理由でした。

(藤井部会長)

・将来の不安っていうところの比率が高いという調査は、どういう関係の調査なんですか。

(野村委員)

・実は調査自体は私が今年度実施をしているんですが、人数が少なくて600人にしか調査できていないんですけれども、コロナ前とコロナ後で、どのような生活課題の変化があったかという調査において、将来の生活ということの項目が、高くなっているという結果がありましたので、今の調査は全国が対象だったんですが、大阪市においても、将来の生活ということに対して、コロナ禍というこの状況において、高まっているのではないかなというふうに推察をしております。

(藤井部会長)

・またちょっと検討ですね。ある意味ではわかるような気もしますが、ある意味では漠然としてもいますし、ちょっとどういうふうにここの中で考えるかというのはまた、検討したいと思います。

(小野委員)

・これ、調査するのが、来年っていうことなのでちょっとあれなんですけど。やっぱコロナの影響について、特に今私は例えば「地域福祉活動について」を見てるんですけど。8ページ以降のところ見てるんですけど、やっぱり、ちょっと来年なのでどうなってるかわかんないっていうのも含めてなんですけど、コロナのような影響が、この地域福祉

活動についてどんな影響を与えてるのかっていうのがわかるのかなっていうのが、ちょっと、この質問で、その辺りの問題は把握しようと思ってるのかどうなのかっていうのがまず1つと。

・するのであれば、やっぱり例えば、回答欄で言うと10ページのところ、「参加したことがない」という方とか「参加したことがある」もそうなんですけど、「他人と接触する機会が増えること」っていう辺りで、おそらくコロナのってさっきあったんですけど、もうちょっと直接、やっぱりこの今の問題かなり重要だと思いますので、その辺りのことを、この調査でもう少し聞いてはいかがかというふうに考えるんですけど。

・考え方としてはその辺りどうなるのかと、あんまりコロナのこと考えないで、コロナ後を考えるのか、あるいは、コロナによる影響はどうなってるのかと考えるのか、その辺りの、調査の方向性を確認したいと思います。

(藤井部会長)

・事務局のご意見をお伺いしたいのですが。各委員の皆様も、ご意見があれば。というのは、1つは、この調査自体はなるべく経年調査をしたいと。

・しかし、コロナの状況というのは、先ほどの野村委員の生活状況、生活困難の変化とともに、活動の変化というこの2つがあって、それをもう一度、少し詳しく調査の中で見ればいいんじゃないかというご意見なんだけども、それはこの枠組みの中でどこまでやって、そこを掘り下げるのかという課題と。

・それだったら、別に何かの、ヒアリングであるとか既存の調査からそこを探るとかいう手だても考えられますので。

・あそこは非常に、先ほど野村委員のご意見も含めて、このコロナの影響ということを、調査の中でどう見るかというのは非常に大きいので、先ほどの学校のこどもの問題ということもあわせて、各委員の皆さん何かその点について、どうでしょうか。ご意見ございますでしょうか。

(種継委員)

・我々高齢者を支えるっていう現場の声っていう形なんですけれども、我々最前線で相談させていただく中でですね、やはりこのコロナの影響っていうのは非常に多大なる影響を受けておりまして。

・一番声が多いのはですね、この孤独感っていういいますか、ソーシャルディスタンスという言葉の代表におかれまして、地域活動がかなり制約されて、この質問14の議論が先ほどからあったんですけれども、この「地域での人間関係」という、ちょっと大きなね、質問ではあるんですけども、孤独感、まあこの孤独からくるまた、うつですとか、認知症の症状っていうのは高齢者領域でもかなり課題になっておりますので、そこら辺を経年で見させていただく中で、孤立っていうんですかね、大学生の方でも、オンラインで、

こういった人々と会えない社会人の人も、会えない環境、社会人なっても会社に出れないという環境もあって、ちょっとこの孤立っていうところの部分も、何かこの大きくとらえるんじゃないかってちょっともう少し具体的な文言も入れながら、経年で見れたらいいのかな。

- ・そこで何か違いがわかればそこに注力して、活動に展開できたらなっているというのは、現場では思っております。

(川上委員)

- ・経年変化ということで前回ですね、1回目のときに、「地域福祉のあり方についての世論調査」ということで調査されていて、回答率が32.0%ということで、これアンケートとして成立しているのかなという、不信感がちょっとあります。
- ・経年変化ばかり問われることによって、またこれ同じことを繰り返すのではないかと、それをどういうふうに参加にしていくなかなというのが、大変疑義を感じております。
- ・専門分野とよく似た質問で、一般の方に質問しても回答してもらえないのかなというものが、本心ではないかな、というふうに思うんですが、この辺事務局どのように考えておられるのでしょうか。
- ・このへんのパーセンテージで対応していこうという考えでしたら、それはそれでも結構なんですけど、もっと回収率がよくなるような方法というのは考えられないものなんじゃないでしょうか。以上です。

(藤井部会長)

- ・ご質問ですので。先ほどのコロナのところをどういうふうに取り上げるのかということと、今の世論調査の、この経年評価を目的にしたこの率の有効性についてどうぞ。

(伊藤地域福祉課長)

- ・まず後の方ですね回収の率の関係で、ご意見ありがとうございます。
我々もこのパーセンテージで、一応統計上は一定有効な結果ということでは確認はしてるんですけども、決してこの率のままでよいかというと、そんなことではないだろうなと思っております。回収の仕方ですね、今、紙で回答していただくような形にはしてるんですけども、オンラインでも回答できるようにできないかとかですね、実際にもらい方とかで、なるべく負担感のないような形っていうのをちょっと検討しているところでございます。引き続き、できる限りご回答いただけるように努めていきたいと思っております。

(藤井部会長)

- ・さっきのコロナのところ、この調査票にちょっとプラスアルファする工夫であくまでも

やっていくのか。少し、かなりこだわった方がいいんじゃないかというご意見も多いので、その点方向性としては、今の現時点でどう考えますか。

（伊藤地域福祉課長）

- ・我々事務局で、今思っておりますのは、1つ経年を見たいというところもあるので、ものすごく多く、コロナの、新たにですね、質問を増やすとかっていうのはちょっと難しい部分もあるのかなと思っております。そこはどうしても、質問が増えとなかなか答えが難しくなるというところもあるので。質問を多く増やすっていうのはちょっと難しい部分があるのかなと思ってます。
- ・ただ一定、委員の皆様方からコロナについてですね、もう少し重要なことなので、掘り下げてみてはどうかというご意見いただきましたので、例えば、何問かですね、こういうことをさらに聞いてはどうかというところが、もし案としてございましたら、ぜひともご意見いただければなというふうに思っております。

（藤井部会長）

- ・今、そのところをどういうふうに調査票に反映するのか、ちょっと別枠で特に取りなのか、既存のところから今ご指摘があったところを、調査があればそこを反映して、計画の進捗状況、計画の進行管理とか、次期の計画に反映するとか、そのデータの取り方について、少し考える必要があるかというところでしょうかね。他、いかがでしょうか。

（浅野委員）

- ・用語解説のところでもお話ししていいですか。
- ・一番後ろの最終ページ、「行政計画・指針」というところ。ホームページURL、QRコードを掲載していただいているんですけども、今、災害の備えについての質問11なんかでも関連するかなと思うんですけど。今、大阪市の人口が多分約280万人ぐらいですかね。その中で外国人の方が、約14万人いらっしゃるって、今ちょっと介護の業界でも、ご存知だと思うんですけど、ベトナム人の方、最近ネパール人の方も増えてきて、13ページの質問11にも、「お住まいの地域で災害が発生した場合、高齢者、障がいのある方など」ということで、「生活上の配慮が必要になる人を知っていますか」ということで。簡単に「知ってますか」という質問もあるんですけど。
- ・そもそも論として、外国人の方が、やはり災害の時にはいろんな意味で、災害弱者になるっていうことも多分皆さんあまりご存知ないのかなっていうのも踏まえて、「行政計画・指針」のところに、ただ大阪市のところにも、外国籍住民に関わる防災の取り組みについてなど、ホームページにもあらわれるかと思うんですけども、それを外国人の方が見て、自分が災害が起きたときに、どういうふうに避難するかっていうのは、ちょっとわからないかもしれない。

- ・例えば住吉区さんなんかだったら、韓国語とか英語とかっていう言語で、いろいろ情報提供もされてるところもあるかと思いますが、何かやっぱり外国人の方にも、どなたが見るかわからないんですけれども、こういうところに、やはり載せておかれる方が、今後災害弱者になるであろう人達にとっては、やはり親切なのかなというふうに。
- ・せっかく設問で聞かれているのであれば、そのところもちょっと充実、ネパールとかベトナム人って言ったら、言語も英語とか中国語では到底わかりかねるところもあるかもしれませんが、やはりパニック起こされた時に、どうしても母国語でしかわからないということとか、先ほどからお話されてる、もし今、このコロナの時に災害が起これば、どうしていいのかわからないって、どこに避難するのかかわからないってこともあるので、出来ましたらそういうことも含めて、少し用語解説にも入れていただいたらありがたいなというふうに思いました。
- ・大阪市にそういう外国人の方が、今だと福祉避難所のこととかハザードマップとか、大阪市のホームページのところに、多分誘導されると思うんですけど、なければ作っていただきたいですし、コミュニケーションボードとかそういうものも、もう今現にありますので、画像で指し示して、避難できるようなところ、言語が繋がらなくても紙1枚、アウトプットすればこれをもって避難すれば何とか日本人とコミュニケーションとれるとか。そういうのがなければ作っていただくとか。用語解説として、そういったものがあれば、載せていただきたいかなというふうに思います。

(藤井部会長)

- ・僕はこの世論調査を多国籍語に全部変えるのかと。

(浅野委員)

- ・じゃないです。

(藤井部会長)

- ・それ本当は必要なんですけど。

(田村委員)

- ・全体ということであれば、別に地域住民の推進役の方の方でもよろしいですか。ちょっと質問なので、項目直接の要求ではないんですけど。
- ・前回の調査の結果の時に、経験年数、在任期間とかの結果のところ、非常にベテランの方が多く結果が出ていたということで、改めてちょっとさっき冊子で確認したんですけど、回答率は約8割ある中で、今回も調査対象がほぼ変わりがないとすれば、この抽出する時っていうのは、24区の区全体に跨るような抽出であって、経験年数等の、委員長とかってことで書かれているので、今回もこのコロナ禍の影響であえて言うと、やっ

ぱり新任の民生委員さんたちが、もともと活動に対して不安やっというところに、訪問で密になるようなことの活動ができないということで、全くに近いほど、地域等によっては、地域活動ができていない民生委員さんも、数多くいらっしゃるということで把握してるんですけども。

・この調査をかけるときに、新任の方とかも含めて、バランスよく、この調査ができるという工夫が、ちょっと調査項目と外れて申し訳ないんですけど、そういうことじゃないと、コロナ禍の影響を項目に入れるかどうかは別として、影響を見るという上でも、抽出方法をどのようにされたのかっていう。前の時にちゃんと見とったらよかったんですが、あんまり気にしてなくて。今回改めて見たら、バランスがベテランに偏ってるっていうので気になったことと、あとコロナの感染や災害等の影響ってのは追加調査でいってもいいのかなと個人的には思っているところです。

(藤井部会長)

・要するに活動者も今後若手っていうことを考えると、ベテランに偏るような抽出っていうことの是正も必要だけど、経年という、それを変えちゃうとくるっちゃうので、ちょっとその辺りと、どうですかね。

(伊藤地域福祉課長)

・調査対象ってということでいうと、前回調査の時は推進役の方については、民生委員児童委員の地区委員長さん、地域福祉コーディネーターの方は、きっと様々いらっしゃると思うんですけども、民生委員児童委員についての調査のご協力というところもありまして地区委員長さんをお願いしたという経過がございます。なので、もちろん地区委員長さんがどれだけの年数かっていうのはその方によるだろうとは思いますが、確かにやはり少し、ベテランの方が多いのかなという。一定の役をやってる方に調査をしているところでございます。

(藤井部会長)

・またこれは改善をする必要があればしていくご指摘だと思います。
・先ほどの前回調査との比較っていうことを考えると、やっぱり基本的にはあまり変えないほうが、今期はいいかなという。
・こういう方法の中の、限定の中での結果だということを出すときに、しっかりそこを押さえながら。
・取れないところのフォローを、むしろどうやっていくのかという。これで全部取り切るというのは、コロナ対策も含めて難しいと思いますので、ちょっとそこその辺りのご指摘として、どういうふうに取っていくのかということになろうかと思います。

- ・ご提示いただいた中で、ちょっと非常に細かいんですけども、お聞きしたいところもございまして。世論調査の資料3 - 1のですね、質問4のところの先ほどの加えた、「予防接種予約などの手続き」って、今お聞きしたら、むしろ、高齢者等のですねSNSの活用による情報収集のお手伝いということでの趣旨やったみたいで。
- ・予防接種を誘導するっていうことのような質問はちょっと、いろいろ議論も起こるなというふうに見ました。それが1点です。
- ・それから、質問8 - 4で、これも、悪くはないんですけども。これちょっとバランスの問題が実はあって、その時はあまり気が付かなかったんですけど、世論調査で住民が地域福祉活動に参加する時に、ある意味では共助互助の活動に、ずっと2番3番4番、5番6番と「支援する活動」って、支援者側に立った人の活動の表現が使われてるのは、改めて見るとちょっと違和感があった。今、あんまりその議論をすることは、よくないと思うので、ちょっと違和感があったと。ただ、なぜそれを言うのかというと、11番で、健康づくり、これも支援する活動ですよね。健康づくりだけが、このコロナ対策で出るので、改めて、思った次第です。これは感想程度で。
- ・ただ、質問9 - 2のところの、これも付加したところで、「医療従事者」「医療機関等への支援」っていうことが、使われてますけども、これでいいんでしょうかね。
- ・例えば、ここでは福祉従事者、福祉機関とかそういうところへの支援っていうのは明確に書かれてないけど、逆に特化して医療機関への支援って書かれると、ちょっとバランスが、という感じがした。
- ・むしろ寄付したいことがあるっていう中に、生活でお困りの方の生活困窮であるとかね、そういう方へのことが、むしろ逆に抜けてたりとかいう、細かい点が気になりました。これは気になったという指摘に留めておきたいと思います。議論しなくていいです、意見ということだけ。

(藤井部会長)

- ・まとめますと、一つは、世論調査の回収率も含めて、またさっきの活動者への含めて、調査方法でより有効な回収をしていくというところで検討する余地があれば、そこは特に、世論調査についてご努力いただくと。回収の偏りがあればそれはまた別途のフォローの仕方も、ご検討いただくということ。
- ・それから、コロナのことにに関して、こどもの問題、将来の不安等、それから活動上、それとつながりの希薄化からの孤立、これは今後、全般的に起こるものの契機になってるという問題、それから活動上の阻害する原因等々がありまして。
- ・先ほどのように、この調査に付加して取っていくのか、少し特化して、そこはそこで聞いていたり、既存の、他部署が取ってるもののデータを活用するのか、若干ここは工夫をいただきたいという。そういうことで、よろしいでしょうか。

(藤井部会長)

- ・それではまた、この調査に関しては、ご検討いただきたいと思います。次に移りたいと思います。

(伊藤地域福祉課長)

大阪市地域福祉基本計画の進捗状況について資料 6 ～ 7 に沿って説明【議事 3】

(藤井部会長)

- ・これは、まだある意味では途中経過なので、こういう評価方法について、というのと、現時点での内容にご質問があればということでよろしいでしょうか。それではいかがでしょうか。

(野村委員)

- ・これは教えていただきたいんですけども、資料 6 の、今ご説明をいただきました、つながる場の開催についてなんですけれども。令和 3 年の 4 月から 10 月までの半年間で、24 区の合計の開催が 67 というので合っていますか。

(伊藤地域福祉課長)

- ・その通りです。

(野村委員)

- ・ということは、これは、やはりコロナ禍において課題は増えているけれども、コロナ禍ですので、開催がなかなか難しかったという、そのような状況をでしょうか。

(伊藤地域福祉課長)

- ・コロナ禍で難しかった部分もあるかと思いますが、今、現時点で言いますと、今もう 1 月になってますけれども、概ね例年通りぐらいの件数には推移してるところでして、コロナ禍であっても、いろいろ工夫をしながら開催の方は続けていただいているかと思えます。あくまでも 10 月末までの時点ということで、ご理解いただければと思います。

(佐藤委員)

- ・今の、野村委員からあったところのすぐ下なんですけども、ツール等の開発っていうのが書かれてあるかと思うんですけど、これは具体的にはどういうことを指すとか、何を目的にツールを開発して、どんなものを開発するのかなっていうのが気になりまして。

(伊藤地域福祉課長)

・総合的な相談支援体制っていうのを、各区で必要に応じて作っていくために、いろいろな関係機関がしっかり連携していけるようにしていこうっていうのを、大きな目的、目標にしております。そのためにですね、いろんな相談支援機関ですとか、関係する機関が集まって、例えば各区内にある相談支援機関のご連絡先とかをまとめたりとか、資源で、どういう取り組みをしてるかとかっていうのをまとめていただいたり、あと共通の相談のシートみたいなものを作ったりとか、様々な取り組みを各区、他の相談支援機関、生活困窮者の自立相談支援機関もそうかと思いますけれども、協力しながら作っていただいているということでございます。

(藤井部会長)

・この計画の中でも重要な項目で、多分これだけでは、測れないと思うんですね。一つは、例えばさっきの67件が少ないのか多いのか。逆に、この会議を開かなくても、各部署が連携できていれば数字が上がらないわけですよ。そういう実態の中の67件なのか、まだまだやっぱり少ないのか。そういう連携が取れてなくてとか。そういう質的な各区の状況の分析であるとか、この67件がどういうケースが特徴的に上がってきて、それが普遍的なのかどうかとか、それに対して仕組化ができてるのかとか、ここは、これだけでもかなりの分析を、どこかでやって、もっと充実する方途をね、もっと施策として進めていけないといけないところなんですけど、そういう面ではこの令和5年までの間で、ここをどこまで分析するんでしょう。

(伊藤地域福祉課長)

・この事業が大阪市としても、まだやり始めて3年というところで、いろいろ試行錯誤しながら各区で取り組んでいただいているんですけども。
・この間の状況で言いますと、関係する相談支援機関ですね、毎年アンケートをこの事業に関してもさせていただいております、そのアンケートですとか、それから、今、部会長の方からのご指摘あったように、どういうふうにこの質的評価をしていくかっていうところですね。
・我々も内部的には行動指標というものを作って、自己評価といいますか、今どういうことをされているかみたいなところは各区で分析していただいたりはしてるんですけども。
・どういうふうに見える化したり評価したり、ちょっとご提示できるものというのがあれば、まとめていきたいと思っております。

(藤井部会長)

・多分、全国的に包括的な支援体制の中の総合相談というのは、自治体の努力義務になっ

てますし、他市では重層的支援体制整備事業の中でかなり具体的な、行政機構改革も含めて進んでいるところに該当する大阪市の事項であるので、多分これ各区でやり方とか、判断基準とかが、非常にまちまちになってると思います。

・逆にそれがいいと思いますけど。でもそれをどういうふうに分析するのかっていうのはかなり、しっかりした分析をしながら、全体的な質を上げていくというところで非常に要点ですので、ぜひこれなどは、やっぱり来年度、どっかで分析したものをしっかり出して、この計画期間中どこまで進めるのかという見通しが必要なのかなとは思いますが。

(小野委員)

・ちょっとそれに関連して、要は評価のところだと思うんですけど、資料7の方で出てるものに関して、これ各項目で一応評価をしてるんですよね。それで、これの評価は見る限り、こういうことをやりますって書いてあってそれがこうやりました、あるいはこういふふうに配布しましたっていうことの、おそらくその評価、これをやったって評価を書いてあると思うんですけど。今の話でいうと、もちろんその評価も重要なんですが、それをやったことで何が起きたかっていう辺りまで、いえるかどうかって話ですよ。

・これをやって、どんな変化が起きたかっていうことを、これを客観的に作るのは難しいと思うんですけど、少なくとも担当者としてやった結果何が起きたかっていう辺りまで把握してくださいっていう、そういう聞き方ができれば。

・まずやったかどうかという問題とそれをやってどんな変化が起きたかっていうのは、これは経年的にやってる意味が出てくると思いますので、何かそういう聞き方をしていけば、今後、もう少し先ほどのような議論の中に繋がるのかなってのは思いました。

・計画全体をおそらくこうやって評価していくんでしょうから、その辺りの工夫ができそうな感じがするかな、というふうに思いました。これは意見です。

(藤井部会長)

・今言った小野委員のやり方が本当にできますか。例えば他の部署から出てきたものを、こういう評価をし直してくれとかいうことで、実際の担当課が言えますか。

(小野委員)

・これは一応言っときますけど、上位計画になったって意味がやっぱりあるかどうかというところの踏ん張りどころだと思いますので、やれるかどうかは別としても、そういう方向はこの会議として、やっぱり出しておきたいなっていうのは思います。そんな無理なことを言ってるんじゃないくて、やってみてどんな変化が起きたかってのを聞いてくださいっていうところですね。

(藤井部会長)

・これは実は地域福祉計画の進行管理のかなり肝になる部分で、そこを具体的に実施可能な方法でやっていかないと。建前で集めて、そのまま載せてるっていうだけでは、これは全然進行管理にはならない。そのところのご指摘だと思いますので、この計画期間中の検討課題としてね、ちょっと押さえたいと思います。

(田村委員)

・そういう意味で、相談支援の体制整備との関係で、今部会長おっしゃったように、件数がどう、例えばここだったら相談受付件数がどう伸びて、質的に言えばどういうことが、このつながる場を開催しなければならない課題だったのかということと、その結果、例えば市内連携をどういうふうに変えはったのかとか、結果として、地域の相談機能をどういうふうに見直した、あるいは自覚した、みたいなところで、ちょっと相關関係とかも、見れる方が。やったやってないだけでなく、相談件数伸びて、相談件数伸びただけじゃなくって、支援体制がどう機能し始めたかということはずいぶん、各区の特性を反映しながら、見える方がそれこそ経年変化として、いいのかなっていうふうには思いました。

(野村委員)

・つながる場に関しましては計画にどういうふうに反映するかということはちょっと置いておいたとしても、きっちりと評価というのは担当課、担当者の方中心にされている、というふうに思いますので、その辺をどうやって計画に反映させるかと、活用していくかということは、別途検討が必要かなというふうに思いました、という感想です。

(藤井部会長)

・2つ聞いてよろしいですか。
・1つめ、具体的に言うと、この資料6の裏面ですかね、2ページ目ですね。この見守り活動、このあり方を計画策定の時に、非常に議論があったところですけども、このやはり、例えば先ほどの、行った成果の数字ですね。数字と、要援護者、真ん中のところの数字というのは、この大阪市としての見守り活動の推進の何%を達成してる数字になるんでしょうか。

(三浦福祉活動支援担当課長)

・見守りネットワーク強化事業の進捗という点で申し上げますと、まず見守り活動そのものは、地域の方、地域の団体の方にやっていただくというベースで、事業の部分がその地域の活動を支援するっていうスキームで進めておりまして、そういった意味では地域の見守り活動がどれだけ数ができてるか、どれぐらいの進捗になってるかっていうこ

とはちょっと事業そのものとしては評価はしていないところなんです。

- ・事業に関しては、その地域の活動をいかに支援していくかっていう、活動を増やしていくかっていう点に重点を置いておりまして。
- ・例えばその地域と見守り相談室の方が、活動について、情報共有しあう場であるとか、見守り相談室が地域の活動を支援する方策をどんなふうに充実させていくかっていう形で行っております。実際この計画の進捗のところの数字に関してはその辺りの、見守り相談室が地域の活動をどれだけ支援したかっていう部分の質的な部分っていうこともありまして、ちょっと数字的な件数等については、上げていない形にはなるんですけども。
- ・実際資料の方に落とさせていただいていますのは、その地域に活動していただくにあたって、どういった地域とのやりとりができてるかという効果としまして、地域にお渡しできている支援が必要な方の、名簿の登載件数ですとか、あとは、どれだけの地域に、活動の前提となる名簿を提供できているかっていう辺りで掲載させていただいてます。
- ・そういった意味では、市内の全地域のほうに、今現状は名簿はお渡しできていまして、その地域団体数については、現状も伸ばしていくっていうふうな形で取り組みをやっておりまして、団体数は 639 ということで、団体数を今後も伸ばしていくっていうことは令和 4 年度以降についても、件数としては出していけたらいいなと思っております。

（藤井部会長）

- ・この部分は、住民の自発性に基づくもので、そこを行政施策として、どう評価していくのか非常に難しい部分があるのは確かなんです。しかし施策として出したところで、この数字になんの意味があるかわからないと、やったらやっただけ書いとくと、それがどういう意味なのかということがわからなければ、こういう評価のところに出す必要もないわけです。
- ・結局住民の活動だから応援だけしてます、応援した結果こんだけですっていうだけの話ですよ。それが行政のこういう計画として評価できるのかという。この数字がどんな意味を持って、今後、このやり方がいいのか、改善するのかということで初めてこの数字の意味が出てくるんですけど。今のご説明では全然、そのことのご回答にはならないような気がします、いかがですか。

（三浦福祉活動支援担当課長）

- ・ご指摘ありがとうございます。
- ・地域のほうの活動数自体は事業の進捗の中には含められないとは思っておるんですけども、今、この件数として挙げさせていただいています、名簿の提供した地域団体数については、これが実際、地域の活動団体も複数ありますので、この団体により多くの活動のベースとなる名簿を受け取っていただくっていうことが、一つは地域の見守り活

動の活発化の一つの指標にはできるかなと思っておりまして。今実際受け取っていただいてない団体に対しても、見守り相談室が働きかけるっていうことを通じて、名簿を受け取っていただく団体が増えていくっていうこと自体が、直接的な見守り活動の充実を示す数字かどうかっていうふうに言いますと課題はあるのかもしれないですけども、一つの指標にできるのではないかというふうな形で数字としては掲載させていただいております。

(藤井部会長)

- ・多くのところが、名簿を渡されたからといって、大体自治会長とかその辺りが、その先それを活用する方法でも困っているというのが多くの現状であって、この数字がその活用まで含めて丁寧に、援助をされてる数字なのか。行政として、渡しましたよという、そういう数字なのか。
- ・大阪の場合は、マンションが多いですね。この数字が、要するにそのマンションのところまでのことに及んだ数字なのか。やっぱり自治会域のところの辺りの、さっきの地区会長とかね、その辺りのところでやってる数字であるとすれば、それは大阪市のもう現実の、見守りの全域の普及の課題にはなっていないわけですね。
- ・マンションで、特に大阪の場合はスプロール化して、そういうことがこの数字からは、評価されてこないっていう。だから、そういう意味では、これ実は見守りって非常に地域福祉のベースで重要なところにもかかわらず、そういうところの分析ができてないというところをご質問をしてるわけなんですけども、いかがですか。

(三浦福祉活動支援担当課長)

- ・ちょっと細かい数字のところまでは記載をさせていただいておりませんし、先ほどご指摘いただきました、名簿を渡してるっていうこと自体が活動の中身を示す数字ではないというご指摘については、受けとめさせていただいた上で、事業としまして、まずは受け取っていただくという入口を始めたところで、入口から入りまして、あとはその名簿をどんなふうに活用していただくかっていう辺りの働きかけについても、どういうふうな働きかけをしてるかっていうのは個別には、数字についても含めて、追っていったらいいところです。
- ・マンション等についての課題につきましても、区によっては、事例としまして、マンション単位での取り組みを進めていただいているところもありますし、そこに対して見守り相談室が支援をしていくってことをやっていただいているところもありますので、そういったことも事例の提供ということで、他の区に広げていけるようなこともやっていけたらいいなというふうに思っています。
- ・いずれにしても、地域の活動をどんなふうに、地域住民の方に進めていただくかっていうところについては、地域の方の、意識の醸成っていうところも含めて、大変難しい課

題ではあると思っておるんですけども、見守り相談室のほうでもその点、地域住民の方とのやりとりも、今後深めていきながら、その活動の具体的な支援っていうところは引き続きやれたらいいなというふうには考えております。

(藤井部会長)

- ・要するに、評価っていうのは何のためにするかっていうと改善のためにするわけです。どこまでやったじゃなくて、このことが次の改善にどう繋がるかということで、初めて評価の意味が出てくるので、先ほどの他の委員のご意見のように、要するに出してこれする数字が、次何をするための数字として出てきてるのかということが非常に重要で、そのところのご答弁がなかったので、お聞きをしたということです。
- ・さっき言ったように、見守りのところで、行政的に建前に進めることが現実の実態に合っていないことの一番現れるところなので、その点しっかり分析をしていただいて。次回、やはりこの施策の取り方がいいのかどうかっていうことも含めて、ご答弁いただけたら、ありがたいと思います。

・もう一つ、資料7の、このA B評価ってのはこれでいいんですか。「順調である」、「順調でない」っていう。

(伊藤地域福祉課長)

- ・この様式自体この部会でもご確認いただいてきたシートではございますので。またご意見いただけたら改めて事務局でも検討したいと思います。

(藤井部会長)

- ・親会議で質問が出そうなので、ちょっと気になりました。
- ・非常に、先ほど言いました地域福祉の評価は、他の施策の評価と比べて難しい。典型例として、先ほど、厳しい質問をしましたのでお許しいただきたいと思います。それごとく難しいということです。
- ・それではこれで今日の審議を終わりたいと思いますが、残るご意見があれば事務局宛にメールか何かでお伝えいただければ、私と調整して、部会案として取りまとめた上、分科会へ送って参りたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。ありがとうございました。
- ・本日も非常にタイトな時間の中でご意見をいただきまして、冒頭にもお伝えしたように調整が残ってしまったものについては事務局と私ですり合わせのうえ、部会案を取りまとめて、分科会へ送らせていただきたいと思いますので、ご了解お願いしたいと思います。

- ・先ほども言いましたように、一番冒頭の形成評価をしていくっていうのはこういうことなんです。ですので非常に難しい。
- ・事務局側も私たちも、ちょっと難しい課題に対して、これからも審議を続けていきたいと思しますので、よろしくお願いします。それでは本日の議事はすべて終わりとなります。進行を事務局にお返しいたします。